

授業科目の区分	専門分野《看護の統合と実践》		
授業科目	医療安全		
開講年次・学期	2年次・前期		
単位(時間)	1(30)		
担当講師	①《専任教員》看護師としての実務経験あり ②《所属：倉敷中央病院 副院長 兼 呼吸器内科主任部長》 ③《所属：倉敷中央病院 感染管理認定看護師》		
科目のねらい	最善の患者安全のために必要な能力を獲得する。患者の安全を守るためには「看護を提供する個人」の能力とともに、「組織」や「医療システム」としての安全管理が求められる。個人の能力として専門的知識・技術であるテクニカルスキルとともに、それらを補うノンテクニカルスキルが必要となる。そのためエラーを引き起こす当事者としてリフレクションをしながら自己の傾向をモニタリングし患者の安全を確保するための援助を実践する能力の獲得を行う。また様々な医療事故事例に沿って組織・医療システムとしての安全管理について学ぶ科目とする。		
到達目標	①患者の安全を守るために必要な個人のスキルについて説明できる ②患者の安全を守るために必要な組織としての安全管理について説明できる ③医療事故の原因分析、対策立案の考え方が理解できる ④患者の安全を守る自己の傾向を述べることができる		
授業計画	回	方法・内容	①
	1	医療安全の概念・必要なスキル 1) ヒューマンエラーとは 2) ヒューマンエラーを起こす人間特性 3) ヒューマンエラーとそのタイプ ・自己の日常のエラーの傾向とエラーの種類を知る	
	2	患者安全に必要なスキル 1) 医療事故の分析と事故発生のメカニズム 2) 患者安全のために必要なスキル テクニカルスキルとノンテクニカルスキル 3) 医療事故の種類	
	3	医療安全のための組織的な取り組み・リスクマネジメント 1) 医療事故につながる医療システム 2) リスクマネジメント 3) 医療事故の構造：ハインリッヒの法則・スイスチーズモデル	
	4	状況認識・意思決定力獲得のための危険予知トレーニング(KYT) 危険な状況が発生しやすい看護場面において、状況認識力を高める 看護場面における医療事故の予防対策を考える	
	5	看護実践にひそむ事故要因を知り、危険回避のための看護を考える 1) 診療に伴う援助技術：内服・注射など 医薬品や医療機器の適切な管理と人や物の誤認が生じにくい安全な管理体制について理解する	
	6	コミュニケーション力向上のため医療安全トレーニング 医療現場におけるコミュニケーションの特徴や、コミュニケーションを阻害する要因を理解し、効果的なコミュニケーション方法を獲得する	
	7	看護実践にひそむ事故要因を知り、危険回避のための看護を考える 1) 療養上の世話における医療事故：誤嚥、転倒など 療養上の世話における事故防止のための安全な療養環境について理解できる	
	8	患者安全のためのチームワーク 1) エラーを予防するためのコミュニケーション ・SBAR ・CUS	
	9	臨地実習における医療事故のその対策 1) 看護学生の臨地実習中の医療事故の実際 2) 事故分析と予防策	

	10・11	医療事故分析（RCA分析） 実習中の医療事故を分析し、再発予防のための行動を考える	
	1. 感染	1) 現在の感染症の特徴と諸問題 2) 院内の感染防止対策 3) 院内感染サーベイランス 4) AIDS, HIV について	②
	1. 感染看護	1) 看護における感染予防の意義 2) 医療施設内で感染症が発生した際の対策 3) 感染管理組織の活動と役割 4) 認定看護師の取り組みの実際	③
必携文献	1) ナーシンググラフィカ, 医療安全, メディカ出版, 2021. (①③) 2) 岩田健太郎他: 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院, 2019. (②③)		
参考文献			
成績評価方法	学科試験 (①②③) 70点および最終レポート30点 演習への参加姿勢・出席状況 あわせて6割以上とする。		
備考			

授業科目の区分	専門分野 《看護の統合と実践》
授業科目	看護管理（災害看護・国際協力を含む）
開講年次・学期	3年次・前期
単位（時間）	1（30）
担当講師	① 《所属：倉敷中央病院 看護副本部長》 ② 《副校長》看護師としての実務経験あり ③ 《副校長》看護師としての実務経験あり ④ 《所属：関西医科大学 看護学部 教授》 ⑤ 《所属：倉敷中央病院 救急看護認定看護師》
科目のねらい	看護管理は、管理者だけでなく看護実践者にも必要な知識や技術であり、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。災害は多種多様であり、いつどこで起こるかわからない。被災者の生命と暮らしを守るため、さらには地域住民の健康や生活問題を解決するため看護の役割を理解し基礎的な能力を養う。さらに国際的視野を広げなら、国際的な視点をもって看護を考えられる能力を養う。
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理に必要な基礎的知識を学び、医療チームにおける看護職の役割を理解する。また、医療チームの一員としての自覚を育成し、看護サービスの提供のため職務遂行に必要な知識を身につける。 ・災害の基礎的知識を学び、看護の役割と機能を理解する。 ・国際社会における保健医療福祉の実情を知り、看護における国際協力について理解する。
授業計画	<p>《看護管理》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理とは 2. 看護管理に必要な知識と技術 <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントとは ・組織とマネジメント ・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整 3. 看護サービスマネジメントの実践 <ul style="list-style-type: none"> ・病院目標・計画、組織図 ・それぞれのポジションでの看護管理 ・看護管理で扱う ・看護部での人材育成（目標管理とクリニカルリーダー ・品質改善に向けた取り組み 4. 看護ケアのマネジメント 5. 看護職のキャリアマネジメント 6. 看護職を取り巻く諸制度 <p>《国際協力》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の健康問題の現状 2. グローバルヘルス 3. 国際協力のしくみ 4. 文化を考慮した看護 5. 国際看護活動の実践 <p>《災害看護》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害とは 2. 災害医療の基本（体系的なアプローチ） 3. 災害への対応（災害サイクルに応じた災害医療・災害医療に関する法律と政策） 4. 災害医療 5. 災害時のトリアージ及びその実際 6. 災害看護（災害サイクルに沿った看護・要配慮者への看護ほか） 7. 心のケア 8. 国際看護
必携文献	<ol style="list-style-type: none"> 1) 上泉和子他：系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践①, 医学書院, 2018. (①②) 2) 近藤麻理：知って考えて実践する国際看護, 医学書院, 2018. (③④) 3) 小原真理子・酒井明子監修：災害看護 心得ておきたい基本的な知識 第3版, 南山堂, 2019. (⑤)
成績評価方法	②③⑤は終了試験、①④はレポート それぞれ6割以上で合格とする。
備考	

授業科目の区分	専門分野《看護の統合と実践》			
授業科目	看護研究			
開講年次・学期	3年次・前期			
単位(時間)	2(45)			
担当講師	《実習指導教員》助産師としての実務経験あり			
科目のねらい	自己の看護実践を振り返り、意味づけすること(事例研究)を通して、看護研究のプロセスを理解するとともに、研究的態度を身につけることができる。			
到達目標	<p>1. 関心・意欲・態度</p> <p>1) 事例研究を行うことを通して、看護を追究する態度を身につけることができる。</p> <p>2) 自分の行った看護実践の疑問点・気がかりな点について明らかにしようという意欲をもち事例研究に取り組むことができる。</p> <p>3) 目標を持ち、事例研究に取り組むことができる。</p> <p>4) 事例研究のプロセスにおいて、他者(クラスメイト・指導者・教員・下級生)と協力し、学びが深まるよう行動することができる。</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>1) 自身の看護実践において研究目的に応じて実践事例を振り返り、看護の現象を明らかにすることができる。</p> <p>2) 自己の看護実践から自己を振り返り、自己の傾向や今後の課題を見出すことができる。</p> <p>3. 技能・表現</p> <p>1) 自己の看護実践や研究目的に応じて、明らかにしたことを客観的な裏付けを基に他者に伝わるように表現できる。</p> <p>2) 自己が明らかにしたいことを明確にし、活用可能な文献を検索し、活用することができる。</p> <p>4. 知識・理解</p> <p>1) 看護研究のプロセスについて理解できる。</p> <p>2) 看護研究の意義が理解できる。</p> <p>3) 看護実践をしていく上で、継続的な学習が重要であることが理解できる。</p>			
授業計画	時間	内容と方法	事前学習	事後学習
	2h	講義 「授業ガイダンス」 「事例研究の目的」 「事例研究のプロセス」	・研究を行う領域に関連した文献を検索し、文献カードを作成する。(最低1件) ・看護研究を行う必要性について考える。	・本講義の目標を達成するための自己の現状について考える。
	2h	講義 「論文のまとめ方」	・ゴールシートを作成する。	・「ビジョン・ゴール」を明確にする。 ・目標達成のための「戦略」を考える。 ・「工程表」を作成する。 ・目的に応じた文献学習を行う。 ・「研究計画書」を作成する。 ・「抄録」を作成する。 ・「発表用パワーポイント」を作成する。 ※上記内容を進めるにあたり、担当教員との対話を繰り返す。 提出課題有
	2h	講義 「論文発表について」	・事例を発表することの意味について考える。	・発表準備を行う。 提出課題有
	2h	講義 「発表会の運営について」	・発表会を迎えるにあたり、確認しておきたいことを明確にする。	・発表会における各役割が取れるよう準備する。 提出課題有
	13h	演習	・計画的に研究をすすめ	・自己の取り組みについての報告

	<p>自己の事例研究についての取り組み</p> <p>※時間割に演習と表記される。</p> <p>※事例研究発表会の時間数によって演習の時間数を調整する場合がある。</p>	<p>るための主体的な取り組みや教員との対話のための準備を行う。</p>	<p>書を作成する。</p> <p>提出課題有</p> <p>※出席確認だけでなく、演習内容の報告をもって出席とみなす。</p>
24h	<p>演習（発表）</p> <p>「事例研究発表会」</p>	<p>・学びの多い発表会となるよう準備する。</p>	<p>・発表会における学びを整理する。</p> <p>・発表を終えての自らの改善点を整理し、集録を作成する。</p> <p>・自己評価を行う。</p> <p>・自己の成長を確認する。</p> <p>・自己の課題を見出す。</p> <p>・看護研究の意義について考える。</p> <p>※全校事例研究発表会の準備を行う。</p> <p>提出課題有</p>
必携文献	<p>1) 松本孚他：新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方，照林社，2009.</p> <p>2) 坂下玲子他：系統看護学講座 別巻 看護研究，医学書院，2016.</p>		
参考文献	<p>各自が取り組む研究プロセスで必要となる文献を検索・検討し、活用しましょう。</p>		
成績評価方法	<p>プロジェクト学習の状況、ポートフォリオ、出席状況、取り組みや態度等全プロセスを評価する。</p> <p>評価規準・評価基準を提示する。(評価の観点：関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解)</p> <p>6割以上を合格とする。</p>		
備考	<p>本講義はプロジェクト学習で進め、ポートフォリオ評価を行う。</p> <p>6割以上を合格とする。</p>		

授業科目の区分	専門分野《看護の統合と実践》		
授業科目	臨床看護の統合 I		
開講年次・学期	3年次・前期		
単位(時間)	1(30)		
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり		
科目のねらい	臨床で体験するさまざまな事例の演習を通して、問題解決に必要な知識、技術およびそれらの活用方法を統合した形での学びを繰り返し、実践的思考を身につける。また自己の学びの意味づけと評価により、自己成長の認知に基づく主体的学習力を身につける。		
授業計画		時間	内容と方法
	A	1 h	臨床看護の実践と統合シラバス説明
	B	4 h	報告演習 報告・連絡・相談の方法について体験的に学ぶ。チーム医療の中でのコミュニケーションについて考える。
	C	8 h	輸液におけるフィジカルアセスメント 輸液療法をうける患者の援助 ～根拠をふまえた看護技術と援助～
	D	6 h	倫理的問題への対処 事例における倫理的問題を明らかにし、倫理原則をふまえ意思決定の過程を考察する。
	E	5 h	援助的人間関係の形成 模擬患者によるコミュニケーション演習 (オリエンテーション1時間、演習4時間)
	F	6 h	医療安全の実際 医療事故体験(ヒヤリハット)より自己の行動を振り返り、回避するための行動を考える。
必携文献			
参考文献	各看護学の必要文献の活用		
成績評価方法	事前学習、出席状況、参加姿勢、レポート提出等で評価し、各演習で6割以上を合格とする。 各演習の点数配分は20点分とし最終評価は各演習の合計得点とする。 B～Fの全ての評価を受ける必要がある。 得点配分の詳細は単位修得表が別にある。		
コメント	各演習の目標・事前・事後学習については、臨床看護の統合と実践シラバス説明のときに別紙で行います。		
備考			

授業科目の区分	専門分野《看護の統合と実践》		
授業科目	臨床看護の統合Ⅱ		
開講年次・学期	3年次・前期		
単位（時間）	1（30）		
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり		
科目のねらい	臨床で体験するさまざまな事例の演習を通して、問題解決に必要な知識、技術およびそれらの活用方法を統合した形での学びを繰り返し、実践的思考を身につける。また、OSCE（客観的臨床判断能力試験）によって、自己の看護実践能力の評価を行い、自己の成長と今後の課題を確認する。		
授業計画		時間	内容と方法
	A	8 h	排泄援助技術アドバンス 排泄におけるアセスメント・排泄援助技術（導尿・浣腸）確認・評価 4時間 排泄援助技術（導尿）の技術評価・排泄における実習での自己の振り返り 4時間
	B	6 h	倫理的問題への対処 事例における倫理的問題とその状況を明らかにし、意思決定の過程を考察する。
	C	4 h	多重課題への対処 臨床で起り得る多重課題発生時の対応について考え、その場での優先順位決定について考える。
	D	12h	看護技術の総合評価 OSCE（客観的臨床能力試験） オリエンテーション① 1時間 オリエンテーション② 1時間 グループワーク・演習 6時間 OSCE 3時間 講評 1時間
必携文献			
参考文献	各看護学の必要文献の活用		
成績評価方法	事前学習、出席状況、参加姿勢、レポート提出等で評価し、各演習で6割以上を合格とする。 A～Cは各20点、D40点配分で最終評価点は合計点となる。 A～Dそれぞれ全ての評価を受ける必要がある。 得点配分の詳細は単位修得表が別紙にある。		
コメント	各演習の目標・事前・事後学習については、臨床看護の統合と実践シラバス説明のときに別紙で行います。		
備考			